

CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



Online Japan Cancer Forum

Report

ジャパンキャンサーフォーラムは、がん患者さんやご家族、一般市民のための日本最大級のがんフォーラムです。キャンサーネットジャパン (CNJ) は、10月24～25日の2日間、ジャパンキャンサーフォーラム2020年 (JCF2020) を、初めてオンラインで開催しました。第1～第3会場、ステージ、ラベンダーリングと、講演を視聴したり交流を深めたり、オンライン MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES セッションも開催。

2日間のビュー数は、JCF2020 特設サイトを經由してご覧になった方だけでも19万7211回、推計でのべ3万9305人が視聴した計算になります。YouTubeからの同時配信も合わせると、例年よりも多くの患者さん、ご家族が視聴したとみられる JCF 2020で注目を集めたセッションの中から、一部のエッセンスを紹介します。詳しい内容は、サイトで公開中の動画サイトをご覧ください。

ジャパンキャンサーフォーラム (JCF) は2014年に初開催し、今年で7回目となりました。毎年、患者さんやご家族とお会いできるのを楽しみにしていました。が、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、初めてオンライン開催となった次第です。キャンサーネットジャパンのJCFは、「がんを知ること」「最新のがん医療の課題を学ぶこと」「患者さん、ご家族、医療者、市民が集うこと」——この3つを柱として

オープニング
セッション
～理事長からのメッセージ～



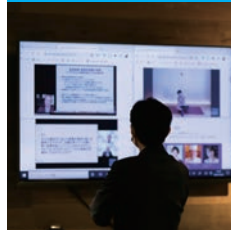
第1会場



10.24
SATURDAY



10.25
SUNDAY



います。知ること学ぶことはオンラインでも可能ですが、集うことをどうやってオンラインで実現できるのか。それが、今回の開催に当たっての悩みでした。そのためにバーチャルでの集いの場を設けています。今回のJCFでは、オンラインで最大5チャンネルを用意しています。オンラインのメリットは、全国、世界中どこからでも入院中の患者さんでも参加していただけることです。オンラインでつながっていることを感じ、楽しみながら知って学んで集っていただけたらと思います。本フォーラムの開催にあたり、多忙の中準備をしてくださった先生方、患者会や支援団体の皆さま、共催をしてくださった学会の皆さま、支援企業の皆さまに心からの御礼を申し上げます。2日間に渡って実施されるJCF2020が、皆様にとって役立つものとなり、一人でも多くの患者さんの希望につながることを祈っております。

岩瀬 哲 (いわせ さとる)

認定NPO法人キャンサーネットジャパン 理事長
埼玉医科大学病院緩和医療科 教授



がん感染症

～新型コロナウイルス

感染症とがん診療について

新型コロナウイルス感染症が、私たちの生活とがん治療に影響を与えています。第1スタジオでは、最初に、がん関連3学会合同新型コロナウイルス感染症対策ワーキンググループ長で、東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授の寺嶋毅先生が、「新型コロナウイルス感染症とがん診療について」講演しました。

寺嶋先生は、がん患者が新型コロナウイルス感染症にかかりやすいのか、重症化リスクはどうなのか、国内外の最新のデータを用いて説明。重症化リスクに関しては、高齢者や血液腫瘍、肺がんなどの人のリスクが高いことが懸念される一方、「治療後4週間以内に感染した場合でも薬物療法、手術、放射線療法の治療別にみても死亡率に差がなかった」との報告

が多い」としました。

「がんの患者さんだからといって必要以上に恐れず、適切な感染症対策をすることが大切です。新型コロナウイルスのために検査や治療、そして、経過観察のための受診を遅らせる必要があるかどうかは、患者さん自身が勝手に判断せず、必ず主治医に相談してください」と寺嶋先生。がん関連3学会が随時更新している「新型コロナウイルス感染症とがん診療について（患者さん向け）Q&A」も参考にしてほしいと強調しました。

講演の中では、最新の研究報告から、マスクの種類の感染リスク、家庭内感染を防ぐ方法、がんの患者さんの生活上の注意点などにも言及。さらに、新型コロナウイルスのためにがん検診の受診を控えたために、進行がんで見つかる人が増える恐れがあることを指摘し、「検診を控えた人は、早めに受けてほしい」と呼びかけました。

新型コロナウイルスの

がん医療への影響

～実証的なデータ分析の結果より

米国在住の国際医療経済学者で、キャンサーナビゲーターのアキよしかわさんは、ハワイと東京で大腸がんの治療を受けたサバイバーです。アキさんは、グローバルヘルスコンサルティング・ジャ



パン米国本社会長として、新型コロナウイルスで日本の病院が大変なことになると考え、希望した病院に無償でデータの分析とその他のソフトウェアを提供。DPC（診断群分類包括評価）を導入している約600病院の2年間のデータ分析から、今年の3～5月、ほとんど全ての病院で外来・入院患者が減少した状況を報告しました。

3～5月に前年比の減少幅が大きかったのは、白内障、心臓カテーテル検査、大腸の内視鏡的ポリープ切除術（ポリペクトミー）だったそうです。ところが、7月に入ると、最も減少幅が大きかったのは胃がんで、結腸がんの減少も目立ちました。がん検診と人間ドックが止まった影響がはじめていると考えられます。

また、アキさんは、6月にポリペクトミーが90%減った影響で大腸がんの診断が遅れ、今後、4500人が命を失うことになるという推計された米国の研究を紹介。

「ポストコロナのキーワードはがん医療の集約化です。日本は米国や英国に比べて人口に対する病床数も病院数も多く、各病院の医師数、看護師数は少ない状況です。コロナをきっかけに、日本の病院診療所がどう変わるかが、がん医療だけではなく医療全体の大きなテーマになると思います」と語りました。

がん臨床試験の

最近の動向

がん治療や支持療法の開発、進歩のために重要なのが臨床試験です。中央大学理工学部教授で、生物統計学の専門家として多くのがんの臨床試験に関わってきた日本臨床試験学会代表理事の大橋靖雄先生（CNCJ理事）は、ガラパゴス化していた日本の臨床試験にEBM（根拠に基づく医療）、ランダム化比較試験が取り入れられた歴史を辿りつつ、「がん臨床試験の最近の動向」を講演しました。

世界的にがん分野が果たしてきた役割は大きく、全てを確率で表すベイズ統計、バスケット試験（同じ遺伝子変異があれば、がん種が異なっても登録できる試験）、ゲノム医療など新しい概念が、臨床試験に導入されてきたとのこと。

大橋先生は、「NPO法人肺がん患者会 ワンステップが資金を集めて、製薬企業と研究者にそれを提供するという、正に





奇跡のような患者主体の医師主導治験も始まっています」と紹介。がんの情報提供に関しては、がん研究振興財団が、適正ながん情報の提供を担っていく方向性が打ち出されており、年内にがんの臨床試験情報の公開を開始する予定だとしました。

なんで? どういうこと? 肺がん治療と生活の疑問にトコトン答えます!

『NPO法人肺がん患者の会ワンステップ共催』

肺がん治療の生活の疑問のQ&A大会では、司会を務めたNPO法人肺がん患者の会ワンステップ代表の長谷川一男さんらが、患者さんから寄せられた100の質問から10個の問いをピックアップ。



「胸腔鏡手術と開胸手術の違いは?」「術後の再発、遠隔転移だと手術はできないのか」「完全切除と言われたのに再発の可能性があるのはなぜか」「免疫力を上げる方法は?」などの質問に国立がん研究センター東病院呼吸器外科長の坪井正博先生(CNJ理事)、同センター中央病院呼吸器内科外来医長の後藤悌先生(同)が回答しました。

「経過観察のCTやPET検査を頻繁に

してくれないのはなぜか」との質問には、坪井先生が「手術後の検査の頻度や経過観察の期間は施設によって異なりますが、頻繁にCT検査などをしないのは被ばくによる2次がんのリスクを下げるためです」と説明。後藤先生は、「ステージ4では薬物療法の副作用が少なく安定しているときは、検査を頻繁にして早く見つけないほうが良い場合もあります。そもそも、早期がんは早く見つけて治療したほうが良いけれども、転移がんは焦って治療を始めないほうが良いことも多い」と話すなど、本音の回答が続きました。

また、「風邪のときに近くの病院へ行ってもいいのか」「抗がん剤治療中、スポーツをしてもいいのか」については、「医師にやってはいいかと言われたこと以外は、何をしてでもOKです」と後藤先生。

坪井先生は、「僕はベストな治療を提供しますが、患者さんが自分の人生をどう生きたいか考え、禁煙、術後の運動などをすることも大事。自分の力で病気を治してほしい」と強調しました。

みんなで考える
「これからの
グリーフケア」



グリーフは深い悲しみや悲嘆を意味し、悲嘆ケア、遺族ケアとも呼ばれます。配偶者、お子さん、ご家族、親しい人、友人と死別した人が

深い悲しみから精神的に立ち直って社会に適応できるように支援することがグリーフケアです。

グリーフケアのセッションでは、キャンサーネットジャパンの岩瀬哲理事長が、がん遺族会 青空の会について紹介。フリーアナウンサーの中井美穂さん(CNJ理事)と、ウィズコロナ時代にとのようなグリーフケアのサポートができるかをディスカッションしました。「オンラインの集いの場が、悲しみを共有して癒されて勇気を得られる場、気づきの場、出会いの場になり得るのか」。岩瀬理事長の問いに中井さんは、グリーフの勉強会に参加した体験から、「同じ映画を観たり、同じ小説を読んだりしたうえで、それを糸口で自分の体験も語り合うなどの工夫が必要だと思います」と提案。最後に岩瀬理事長は、「コロナで皆さんいろんな経験をされているので、グリーフケアに関するアイデアをいただけたらありがたいです」と視聴者に呼びかけました。





クロージング

セッション

ゲノム医療の未来



クロージングセッションでは、まず、島根大学医学部附属病院腫瘍内科教授の田村研治先生が、遺伝子、DNA、プレシジョンメディスン、次世代シーケンサー、がんゲノム医療とは何かについて分かりやすく解説。中井美穂さんを司会に、肺がん患者会ワンステップ代表の長谷川一男さん、国立がん研究センター中央病院呼吸器内科外来医長の後藤悌先生と「ゲノム医療の未来」についてディスカッションしました。

現在、がんゲノム医療として、標準治療が終わった、あるいは終わる予定の患者さんを対象に、手術や生検で採取したがんの組織を用いて100種類の遺伝子異常を調べる2種類の遺伝子パネル検査が保険適用になっていきます。血液で遺伝子異常の有無を調べるリキッドバイオプシー型の遺伝子パネルの開発が進んでおり、田村先生は、「将来的には、がんの細胞を取らなくても遺伝子異常の有無が分かるようになる可能性がある」としました。

後藤先生は、「現在は、遺伝子パネル検査を受けて実際に治療が受けられた人は十数%ですが、パネル検査はもつとよくなると思います。自分の治療にはつながらない場合でもデータが蓄積され、将来の患者さんたちの治療につながる可能性があることも知ってほしい」と発言。長谷川さんは、「患者からすると、薬物療法の対象になる人は、初回治療のときに、すべての遺伝子異常の有無を調べてもらえると嬉しい」と話しました。田村先生も、「近い将来は、少なくとも転移が見つかった時点で、遺伝子パネルが使えればいいなあと思います」とコメントしました。

後藤先生がCNIJの理事として、「新型コロナウイルス感染拡大でがん診療にも影響が出ている状況ですが、CNIJは、オンラインのイベントなどを通じて、がんの患者さん、ご家族の支援を続けていきたいと考えています。今後もご支援をお願いします」とあいさつし、JCFC 2020は閉会しました。

 Bristol Myers Squibb™
ブリストルマイヤーズスクイブ

サイエンスを通じて、 患者さんの人生に 違いをもたらす™

深刻な病と闘う患者さんに革新的な医薬品を開発し、提供する。
私たちは、この使命を胸に、世界中であくなき挑戦を続けます。
ひとりでも多くの患者さんに、新たな希望をお届けするために。
患者さんの人生に違いをもたらすイノベーションを起こす。
それが、私たちの務めです。

第

2

会
場

リンパ腫パネル

ディスカッション

もっと話そう治療のこと生活のこと



CNJでは8月にオンライン血液がんフォーラムを開催し、リンパ腫の基礎と新しい治療について2人の医師が講演しました。リンパ腫パネルディスカッションは、悪性リンパ腫患者会グループネクスス理事長の天野慎介さんが司会を務め、その時に聞けなかった質問に、国立がん

研究センター中央病院血液腫瘍科長の伊豆津宏二先生と、びまん性大細胞型リンパ腫（DLBCL）体験者でフリーアナウンサーの笠井信輔さんが答える形で進みました。

質問の内容は、「DLBCL（びまん性大細胞型リンパ腫）のR-CHOP療法以外の治療の開発状況」「最近の副作用対策（支持療法）の進歩は？」「腫瘍マーカーの上昇で、再発治療を開始すべきか」「再発の不安にどのように向き合えばよいのか」「CAR-T細胞療法について」などです。

再発の不安に対して笠井さんは、「がんは日本人の2人に1人になる身近な病気なのに、まだがんになっていない人はがんを恐れています。がんになった我々だけが再発を恐る必要はないのではないのでしょうか。もう一回リセットして人生を楽しみましょう」とコメント。

伊豆津先生は「副作用でつらい思いをしているときには、遠慮なく、医師や看護師に伝えてください。新しい薬、治療法の開発も進めていききたいです」と語りました。

Q5 経過観察をしています。腫瘍マーカー（sIL-2R）が上昇してきましたが、再発でしょうか。治療を開始すべきでしょうか。



がん患者の性について考える



がん治療後に性や生殖の問題で悩む患者さんは少なくありません。昭和大学保健医療学部教授の渡邊知映さんが、「がん患者の性について考える」をテーマに講演し、がん種別に手術、放射線治療、薬物療法が性生活や生殖に与える影響を詳しく解説。治療中の性生活の注意点についても言及しました。

「性についてはパートナーの有無、性的指向に関係なく、誰でも悩むもの」

そう話す渡邊さんは、「がんになって性生活なんてと消極的になる方が多くいらつしやいます。でも、スキンシップなどが大切な人との結びつき、孤独感を楽にしてくれるかもしれません。ぜひ、医療者にも相談してみてください」と強調しました。

Q2 化学療法後の性生活で気を付けたほうが良いことがあれば、教えてください。



情報のチカラでつなぐ未来の医療。

私たちの使命は、患者さんのために、医療従事者や製薬企業の方々へ確かな情報をリサーチ・分析し、発信することです。

4つの目線（地域、患者さん、疾患、製品）で医薬品マーケットの本質を理解し、ソリューションを提供いたします。



国際ライフサイエンス株式会社

<https://ilsnet.co.jp>


慢性疾患を持つ がん患者の がんへの向き合い方



慢性疾患は、糖尿病、高血圧などの生活習慣病をはじめ、関節リウマチ、アレルギー疾患など徐々に発症し治療も経過も長期に及ぶ疾患の総称です。福島県立医科大学白川総合アカデミー・白川厚生病院総合診療科准教授の東光久先生は、「慢性疾患を持つがん患者のがんへの向き合い方」をテーマに講演。がんも「急性経過を伴う慢性疾患」と位置づけ、自分の価値観、人生観に合わせて治療を受けるかどうかも含めて患者さん自身が選択していく重要性を訴えました。

東先生は、19年にスタートした医療者が患者力（ペイシエントエンパワメント）を引き出すスキルを学ぶプログラムPEP（Patient Empowerment Program）についても紹介。糖尿病、高血圧、喘息などの慢性疾患があるとがん治療が制限されるのか、がん治療と慢性疾患を診る医師とのコミュニケーションの取り方も解説しました。



第1スタジオで聞きました！

新型コロナの影響？

「緊急事態宣言後は、がんの患者さんの診察、治療は平常通りに戻ってきましたが、ご家族への説明の機会は減っています」「患者さんの感染予防を考えると、ご家族への面会を制限せざるを得ないところが悩ましい」「初診のがん患者さんが例年より3〜4割減っています。今後、進行がんの患者さんが増えるのが心配」――。

第1スタジオに登場した医師からは、そんな声が聞かれました。一方で、「終末期の患者さんへの面会が制限されるので、在宅医療への流れが進んだ」「緊急事態宣言中は、主治医から患者さん全員に電話をして現在の体調や状態を聞き、受診をずらせる人はずらした」という病院も。

「韓国などのように腕時計型のウェアラブル端末で患者さんの健康状態のチェックをして受診回数を減らす流れが、コロナをきっかけに加速する可能性がある」などと、コロナ禍でオンラインセカンドオピニオンやIoT技術導入がいつかに進んだことを前向きにとらえる声も多く聞かれました。また、「オンラインでの交流会だとかへ集まる患者会より、参加へのハードルが下がる人も多いようです」と話す患者団体の代表もいました。

オンラインセミナーの舞台裏

第1スタジオでは、2台の大型ビデオカメラで撮影し、テレビなどでもおなじみの講師陣の講演の様子をライブ配信しました。テレビのセットさながらのおしゃれなスタジオでは、スタッフが密にならないように配慮し換気も続けましたが、途中、外の雑音や救急車の音が視聴者に聞こえないかヒヤヒヤする場面も。

講師陣からは、「オンラインだと、聞いてくれている患者さんやご家族の反応が見えないからとても緊張しました」との声が多かったです。スタジオにいる講師とオンライン上での参加者とのやり取りがうまくいったセッションもあり、リアルなイベントとは異なる緊張感がありました。



**JCF2021
開催決定！**

2021年8月21日（土）・22日（日）

文／福島安紀 写真／AKANE

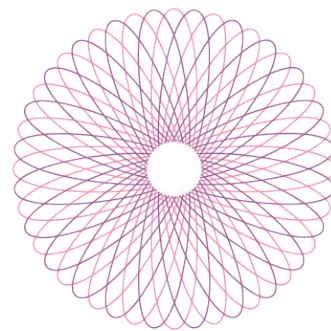


ONCOLOGY

Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



LAVENDER RING

毎年、華やかで夢のような時間と空間を提供してくれているラベンダーリング。オンラインになった今年も他では見ることが出来ない素敵な企画を沢山揃えてJCFと同時に開催しました。

まずは、オンラインメイクアップ&フォトウィズスマイルプログラム。がん患者さん（男女問わず）に、資生堂のビューティーコンサルタントがマンツーマンでアドバイスしながら、メイクを完成させ、それをスマホ等で撮影します。2日間で84名のがん患者さんが参加しました。参加者からは「丁寧にアドバイスいただき、とても楽しいひとときでした。これからのメイクに活かします」などの感想をいただきました。

25日はラベンダーリングチャンネルが開設。朝10時からのキーノートセッション「負けるもんか」では、昨年12月にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBC）に罹患された笠井信輔さんをゲストに迎え、闘病中のことや、病気発覚から完全寛解までの気持ちの変化、外見ケアの話など伺いました。かつてフジテレビで同期だった中井美穂さんが司会を務めたことも

ありました。息の合った楽しいトークが繰り広げられました。



また、キーノートセッションにも登壇した資生堂トップヘアメイクアップアーティストの原田忠さんによるメイク講座「男の整容術」がありました。原田さんが自身の片方の眉をライブで全て剃り落とし、そこからどのように眉を描いていくかを実践したプレゼンテーションは衝撃的でした。男性がん患者さんにとって副作用による脱毛で眉がなくなることは髪が抜ける以上にショックなことだそうです。この映像は男性がん患者さん必見です！

お昼の時間は「猫舌堂×LAVENDER RING」華やかなカレー談義。#カレーは裏切りにやいああなたの「カレー」がたぐく食べる喜びというプログラム。猫舌堂代表で頭頸部がんサバイバーの柴田敦巨さんと荒井里奈さんが、治療で味覚異常になっても「カレー」だけはカレーの味がして食べることができたという経験からこの企画が実現しました。スペシャルゲストに資生堂パーラー

の総調理長の倉林龍助さんを迎え、前半はカレー談義。後半は事前に募集した「カレーにまつわるエピソード」を5名のがん患者さんがプレゼンテーションし、最優秀賞者には資生堂パーラーの豪華ディナー券が送られました。

午後はゲストに原千晶さんを迎えた「明日の私をつくる」というトークセッションや、YouTubeやインスタグラムなどのSNSで「がん」になってからの生活を積極的に発信されている10・20代のがんサバイバーのトーク、ラベンダーリングメイクアップ&フォトプログラムで200名以上の写真を撮ってきた資生堂のフォトグラファー金澤正人さんによる写真術、「LAVENDER RINGのCMをみんなで作る参加型のプログラムまで、バラエティに富んだチャンネルになりました。

文／藤原



ラベンダーリングのフォトブックが
2021年2月4日に発売決定！
詳細は、<http://lavender-ring.com/>



アムジェン株式会社、 2020年4月1日誕生。

アムジェンは、1980年に米国・カリフォルニア州で創業し、本年40周年を迎えます。今日、全世界のアムジェン・グループ企業では、22,000人のスタッフがアンメット・メディカル・ニーズの高い領域において挑戦を続けています。



会社概要はwww.amgen.co.jpをご覧ください

AMGEN STORY

1980s

バイオテクノロジーの黎明期。アムジェンは新たな科学技術を「患者さんのために」役立てることを決意しました。

1990s

アムジェンのイノベーションは、アメリカ、そして世界へ。同時に、新時代の科学者を育成する事業をスタート。

2000s

骨疾患、炎症性疾患、循環器疾患、がん領域における研究開発を加速させました。

2010s

ヒト遺伝学によって立証される薬理的標的の研究を強化。日本で合弁会社アステラス・アムジェン・バイオファーマを設立。骨疾患、循環器疾患、がん、神経疾患領域で活動。

ステージ

熱気あふれた集い



「ステージ」では、患者支援の団体・企業や専門家による講演、サバイバーによるトークセッションなどが繰り広げられ、熱い2日間となりました。

団体紹介には37の患者支援団体、企業、病院が参加しました。支援するがん種も、乳がん、前立腺がん、小児がんなどからサルコーマ、男性乳がんといった希少がんまでさまざまです。それぞれに特徴ある活動を上手にまとめてお話しいただきました。

団体紹介後におこなった座談会では、話題は一貫してコロナ禍の活動に関するもの。リアルのを開催しづらい中で、多くの団体が試行錯誤しながらもオンライン活用をチャレンジされていました。オンラインのメリットは遠方や忙しい人も参加できる、相談者がリラクセスできるというもの。海外との距離が縮まったとのコメントもありました。一方で共通した悩みは、高齢の方や若くてもオンラインツールに馴染みがない方への支援をどうするかでした。事前に電話でアプリのダウンロードから使い方を支援する、勉強会を開く、会の最初に必ず操作方法を確認する、といった実例が紹介され有意義な意見交換となりました。



ニヤ助とバ次郎の在宅忍法 #17

気持ちを書き出してみる

減 19代と血血、女性

【当時の状況・心境】
やりきれない思いやモヤモヤした感情を抱える事が多かったときは思いつめたままノートなどに書き出すようにしていました。言語化して文字にすると気持ち整理されスッキリするように感じました。

【今思うこと】
毎日の簡単な記録をつけるのもオススメです。何年経ってからその記録を振り返って見ると面白い発見があります。

またミニセッションも開催。「不安軽減のための、がんとお金」では、



実践的なやりくりについてNPO法人がんと暮らしを考える会理事長の賢見氏よりご講演がありました。「がんサバイバーのためのマインドフルネスヨガ」では早稲田大学グローバルエデュケーションセンターの

山内やよい先生より心身をリラクセスさせるヨガのセッション。そしてテルモ株式会社からは、栄養補助食品「テルミール」のレシピ紹介。どれも実践はもちろん知っておくだけでも安心できる貴重な学びがありました。「在宅忍者ニヤ助とバ次郎」からみるコロナ禍の上手な泳ぎ方」では、入院生活の面白エピソードなど思わずクスリと笑える話も紹介されました。

両日とも最後のセッションはがんサバイバーや医療従事者による熱いトーク。24日は「がんサバイバーの声を聞こう」、25日は「がんナビゲーター(CIN・CCN)活動報告」。仲間による助け合い活動、両立支援や前向きな生き方に関する啓発活動など、がん罹患経験や支援経験を通して新たに目覚めた使命について強い想いが語られました。特に視聴者の参加が可能だった24日は、チャット欄に多くの応援コメントや質問が届き活気のあるセッションとなりました。

オンライン開催ということで物理的には離れていましたが、同じときと想いを共有することを通して「集う」ことが実感できた貴重な時間でした。

文／野北

血液がんに特化したオンラインフォーラムを開催！

「入院中のためオンラインで視聴できて助かりました」「海外からでも参加することができて良かった」「体調が辛いときは横になりながら聴いていました」と、参加者から嬉しいコメントをいただいた血液がんフォーラムは、8月29日(土)〜30日(日)にオンラインで初の試みとして開催いたしました。ほぼ全都道府県から250名の方々がアクセスしてくださり、全チームの延べ視聴者数は520名を数えました。予想を超える大勢の皆さんへ参加いただき、本当にありがとうございました。



開催報告、当日の講演の様子はこちらよりご覧ください。
https://www.cancernet.jp/bcf_2020

川県立がんセンターを会場に実施するはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染の影響を受け、開催を中止にしたものの開催を望む大勢の方々の声に背中を押されて実現することができました。

参加された方々は、治療中の患者さんが最も多かったのですが、次いでご家族とほぼ同じくらい大勢の医療従事者の方々が視聴してくださっていたことを知り、情報を求めているのは患者や患者家族だけではないことを実感しました。印象に残った感想として、「基礎から最新の治療薬情報、知識を専門医から得ることができた」「講演会やコミュニケーションに参加するには難しい高齢者にとつて、今回の機会はとても貴重でした」「講演内容も幅広く、家族みんなで励まされまし

た」などアンケートへもたくさんのコメントをお寄せいただき集計結果は30ページを超える報告となりました。

造血幹細胞移植総合支援プロジェクトSTART-001の監修を務めてくださっている神奈川県立がんセンター病院院長の金森平和先生はじめご講演にご協力くださった諸先生方、今回初めて貴重な体験談をお話くださったテキサス大学MDアンダーソンがんセンターの上野直人先生、また最強の広報力とパワー全開で血液がんフォーラムを盛り上げてくださったフリーアナウンサーの笠井信輔さん、心強いサポートをいただいた大谷貴子さん、プロボノしてくださったWELLの皆さん、そして協賛、協力など多大なご支援をくださった企業の皆様、誠にありがとうございました。来年も是非開催をとたくさんのお声を頂戴していますので、更に役立つフォーラムが開催ができるよう、努力して活動が続けてまいります。

文／古賀

ちやまちキャンサーフォーラム オンライン2020



今年で6回目を迎えるMBS 毎日放送との協働イベント「ちやまちキャンサーフォーラム」は新型コロナウイルス感染症による影響を鑑み初のオンラインでの開催となり全国よりご視聴が可能となりました。2つの医療セミナーと特別ゲストの堀ちえみさんを迎えるのスペシャルトークセッション。そして、いつもはロビーで同窓会の様に盛り上がりつつある患者会や支援団体、企業によるブース展示も今年はオンラインでのご紹介となりました。



講師：中山 貴雄

セミナー①では「新たに承認！ますます進化する乳がん治療」予防切除保険適用など最新の動き」をテーマに大阪国際がんセンターの中山貴寛先生よりお話をいただきました。環境因子が主に関与している以外に5〜10%は遺伝性であると言われる乳がん。予防切除が保険適用となった今、遺伝性乳がんとはどのようなものなのかを手術（乳房再建含む）まで含めて詳細にお話をいただき、後半は皆さんの関心が高い抗がん剤・分子標的薬などサ

セミナー②では「コロナとがん患者」受診控えはいつまで続く？がん患者の不安に答えます」をテーマに、国立がん研究センターの中山貴雄先生より、コロナの感染者数が増え出した時の注意点や重症化しそうな方の基礎疾患についてお話いただきました。また患者・病院それぞれの立場から見た緊急事態宣言中に起こった事、受診控えによる発見がん数の減少予測など、どれも興味深いものばかりでした。

最後のプログラム、スペシャルトークセッションでは「ステージ4でもあきらめないがん治療とは？」をテーマに、日本医科大学武蔵小杉病院長の勝俣範之先生より「ステージ4は末期がん？治療は抗がん剤しかない？」などステージ4のがんの誤解について詳細にお話した

きました。続いて舌がんサバイバーの堀ちえみさんを迎えるのトークセッションでは、がんを診断されるまで長く時間が掛かった経緯や告知を受けた時に頭をよぎったのは仕事や家族の事。また、日々の生活の中で目標を見つけたスリッパアップしながらリハビリを頑張った事など、普段の堀さんの姿を一生懸命にお話し下さいました。中でも他のがん患者さんや回りの方々に勇気づけたい思いからご自身のがんを公表された事が、SNS上などでは励ましの言葉もある一方、一部の方から誹謗中傷の言葉を書き込まれるなど、このような現実もある事を隠さずお話しされました。「同じ思いをされている方もおられるので事実として伝えたい」との思いから公表するに至ったそうです。勝俣先生より「同じステージ4でもそれぞれ治療



左から高井美紀アナウンサー・講師 勝俣範之・堀ちえみさん・河田直也アナウンサー

が違ふ。この事を理解していないと偏見に結び付く原因となり得る」と話されました。最後になりますが本イベントにご支援下さいました日本イーリリー株式会社を始め、関係者の全ての皆さまへ感謝するとともに心より御礼申し上げます。

文／橋本

アーカイブ配信
ブース紹介などは
特設ページより
ご覧ください。



https://www.mbs.jp/joc/e_forum2020.shtml

よくわかるがん免疫療法 ガイドブック 患者さんとご家族のために

日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブック 患者さんとご家族のために」作成ワーキンググループ 編
B5判 128頁 定価2,420円(本体2,200円+税10%)

患者さんと家族のための 放射線治療 Q&A 2020年版

日本放射線腫瘍学会 編
B5判 228頁 定価2,420円(本体2,200円+税10%)



金原出版 <https://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



体重減少は予後に影響する

(米国臨床腫瘍学会による、体重減少の程度と予後との関連)

■体重減少の程度（グレード）

体格指数 (BMI、体重 kg ÷ 身長 m ÷ 身長 m)

	28	25	22	20
6 か月間の体重減少率 (%)				
2.5	0	0	1	1
6	1	2	2	3
11	2	3	3	4
15	3	3	4	4
	3	4	4	4

■予後

体重減少の程度 (グレード)	生存期間中央値 (か月)
0	21
1	15
2	11
3	8
4	4

Martin L, et al. J Clin Oncol. 2015; 33(1): 90-99. など
を参考に作成

「がん悪液質」という言葉を聞いたことがありますか。ダイエットをしているわけでもないのに体重が減少し、筋肉量が減る、食欲も出ないなどの症状が出て、さまざまな機能障害と代謝異常を伴うのが、がん悪液質です。CNIJでは新規にがん悪液質をテーマに冊子を制作中です。間もなく発刊する冊子の内容を先取りして一部ご紹介したいと思います。

積極的な治療が受けられなくなり、肺炎などの合併症を生じやすくなるため、予後に影響すると言われています。

冊子では、がん悪液質の原因や悪化させる要因、進行度を表す3つのステージ、「食べられないのでやせる」というがん関連体重減少との違い等について詳しく解説しています。また、予防するための工夫や対応・対策、開発が進行中の薬物療法についても触れます。

この冊子は、京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学教授の高山浩一先生に監修していただきました。コロナ禍における取材はウェブミーティングになりましたが、学ぶべきことが非常に多く、すべてのがん患者さんに

近日発刊!! 「もっと知ってほしい

がん悪液質の予防と改善のこと」

そして医療従事者に、体重減少について、がん悪液質についてもっと知ってほしい、という思いが増すばかりでした。これまでもがん患者さんの栄養管理や食事については語られることが多くありましたが、是非、そこに「がん悪液質」という視点を入れて欲しいと思います。

がんの診断早期から「がん悪液質」の知識を得て、治療中の食欲低下や体重減少を軽視せず、体重・筋力の維持を意識することが大切です。体重減少は何kgではなく何%か、が重要です。ここで注意が必要なのは、食べて欲しい家族思いが強くなることによる患者との衝突です。冊子では、家族間の衝突の原因となりやすい「食べたいけれど食べられない」VS「食べさせたいのに食べてくれない」としてコラムを掲載予定です。近日発刊予定の冊子を是非、ご活用ください。

担当/池田

Lemonadestand Japan

「レモネードスタンドジャパン 応援アンバサダー」グッズを販売しております。収益が寄付となり、小児・AYA世代への患者支援へ活用されます。

担当/濱中



<https://www.cancernet.jp/goods>



命を明日につなぐ。希望は世界中にある。

課題と国境を越えて、
人々の明日をひらく製薬会社、ヤンセンファーマ。

世界のすべてが、私たちの研究室。病と懸命に闘う患者さんのために、最高の科学と、独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にごそ挑んでいく。新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。

そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社
www.janssen.com/japan



がんのセクシュアリティ支援事業 ウェブサイト・アプリ公開間近

今年度よりスタートさせた助成金事業「がん患者の性生活（セクシュアリティ）と心と体に及ぼす性的側面のサポート」の最新情報です。新型コロナウイルスの問題もあり、工夫をしながら進めてきましたが、ようやく2021年の2月にはみなさんにご活用いただけるようなカタチが出来そうです。

近年、がんを克服して、あるいはがんと共に社会生活を送れるようになってきました。そこで、がん患者への就労支援はだいぶ広がってきているように思いますが、がん患者やそのパートナーへのがんやがん治療に伴う性的側面をサポートする情報はまだほとんどありません。国民性もあるのだと思いますが、一般の性教育でさえ、まだまだ十分とは言えないのですから、ある意味仕方がないのかもしれない。

プロジェクトを担当する私は、遡ること15年ほど前、看護師であり血液がんで闘病中の患者でした。その時、サバイバーや患者家族など数名の有志で、定期的に患者支援の勉強会を開いており、同じ看護師でありながら、がん患者のセクシュアリティ支援に熱心に取り組む一人の元気な女性と出会いました。講師として話す彼女の「抗がん剤や全身放射線治療をすると膣が委縮するから…」などと高齢男性がいる中でも笑顔で、恥ずかしくなるような内容を当たり前のようには話す姿に、衝撃を受けました。その後、がん患者のセクシュアリティに関する小冊子制作のお手伝いをする機会があり、時が流れていきました。15年後、現職に就き再会したのですが、がんを取り巻く状況は大きく変化しているものの、当時の小冊子は細々と大きな改訂もなく増刷されていることを知りました。同時に、国内におけるがん患者への情報提供がまだまだ十分でないことを知りました。何とか、小冊子の改訂となるようなものだけでも作れたら。そのようなことを考えていた時に、今回の助成金の話を知りエントリーするに至りました。

がんのセクシュアリティ支援



専門相談ツールの開発

がん患者の性に関する専門家への相談のハードルを下げ、アプリでの無料相談を実施



情報発信

WEBを使ってがん患者やパートナーのニーズに合った情報を広く発信



講演会・セミナー

広く理解していただけるようWEB講演会等を開催



LINE スタンプ

LINE スタンプでコミュニケーションを支援



小冊子作成

医療現場でのセクシュアリティ支援をサポート

「がん患者なんだから」「がんを治してもらったんだから」。そのうえ、恋愛だの性生活だのなんて。がん患者もそのパートナーも無意識に考えがちです。もしかしたら、医療従事者もそう思っているかもしれません。そのような状況を少しでも変え、がん患者やそのパートナーが安心して性について語り合える社会になるように、この事業を進めていきます。2021年1月～2月にかけてCNCJのウェブサイト情報発信したり、少しでもパートナーとのコミュニケーションをサポートしたく、LINEのスタンプやアプリケーションをリリースしたりします。その他随時お知らせしますので、是非、ご活用ください。

担当／池田

がん患者・パートナーのコミュニケーションをサポートしてくれるキャラクターの名前を募集中

パートナーに対して、面と向かっては言いにくいことも、今の時代、LINEのスタンプでは表現できることがありますよね。「そばにいて欲しいな」「そっとしておいてほしいな」「いつでも声をかけて」「頑張ったね」などパートナーとの関係だけでなく広く使っていたくれるようなスタンプを作ります。そんな表現をサポートしてくれるのはCNCJのキャラクター。名前があると良いですね。現在、みなさんから名前を募集しています。期限は2021年1月末日です。みなさんのアイデアと一緒にカタチにしませんか。

担当／池田

私たちの
キャラクター名
募集してます！



応募締め切り：2021年1月末日

応募先：<https://forms.gle/f58R7XFv3BLA4NkE9>

がんナビゲーター認定試験 & 活動報告

今年5回目となる2020年度

CNJがんナビゲーター認定試験を11月20日(金)～21日(土)に実施しました。今年の受験者は69名、うち合格者は48名でした。受験者の平均年齢は45才、「がんの知識を深めたい」「患者支援をしたい」という受験動機が多く、医療従事者の方々が多く受験されていたことが特徴でした。

また、JCF2020ではCCN・CCIN活動発表のセッションを始めて実施し、認定者5名より現在がんナビゲーターとしてどのような活動をしているかを詳しく発表していただきました。内容は患者会の設立、がん患者の就労支援、海外におけるがんナビゲーターについての研究発表、医療者が社会から

みた患者支援の在り方など、大変興味深いものばかりでした。当日の様子はJCF2020のサイトよりご覧ください。

また夏にはCCN認定者へのアンケート調査を行いました。この結果からも多くの認定者が日々研鑽しつつ全国各地で活動している様子が伺えました。アンケート集計結果はCCN認定試験のページよりご覧ください。

担当/古賀



CNJがんナビゲーター
(CCN) 認定試験
<https://www.cancernet.jp/training/ccn>



オンライン乳がん市民公開講座

「コロナ禍における乳がん診療」
乳がんの診断・治療の機会を逃さないために」開催

10月3日(土) 日本イーライリリー株式会社との共催で初のオンライン乳がん市民公開講座を開催しました。コロナ禍における乳がん診療にテーマを絞る事前の質問を受け付けたところ、大変多くの質問が寄せられました。テーマへの関心の高さと、多くの患者さんが不安な日々を過ごされていることが見受けられました。

最初に福島県立医科大学 腫瘍内科 佐治重衡先生が、COVID-19に伴う乳がん診療トリアージのことや実際の現場の状況について紹介し「重要なのは患者の予後に悪影響が出ないこと」と話されました。また日頃から諸外国の医師たちと交流していたことで各国間での情報提供や連携が大変有り難かったというお話しや「リスクと利益のバランスを出来るだけ正確に把握し進めていくことが大切」と話されました。後半のQ&Aセッションからは、聖路加国際病院がん相談支援室看護師の橋本久美子さんも加わり事前の質問に回答いただきました。これらの質問と回答はCNJのCOVID-19のサイトにまとめて掲載しています。1時間と短い時間でしたが、全国から333名の方が参加され、内6割が患者、家族、2割が医療者で、オンライン開催のメリットが活かされた市民公開講座となりました。

担当/藤原



CNJ「COVID-19に関するがん患者と家族のためのQ&A」
<https://www.cancernet.jp/covid-19-qa>

男性乳がんの会「メンズBC」 オンラインにて活動中!

2020年8月22日(土) メンズBCとして初めてのオンライン交流会を開催いたしました。11月の男性がん啓発月間には第2回も無事に開催し、のべ19名の患者さんとそのご家族の方にご参加いただきました。

10月24日(土) オンライン開催のジャパンキャンサーフォーラムでは、メンズBCをいつも応援してくださる沢田晃暢先生(N T T東日本関東病院乳腺外科部長)と下村昭彦先生(国立国際医療研究センター)のご協力により、さらに広く深く、男性乳がんに関する情報をお送りすることが実現。海外からのメッセージもいただきました。コロナ禍においては対面での活動が困難なもどかしさがある一方で、オンラインだからできることもあると実感しました。2021年は、距離や時間を超えられるオンライン交流・啓発企画を考えております。引き続き、ホームページでの情報共有やオリジナル啓発ピンバッジ販売も実施中です。

担当/大田原



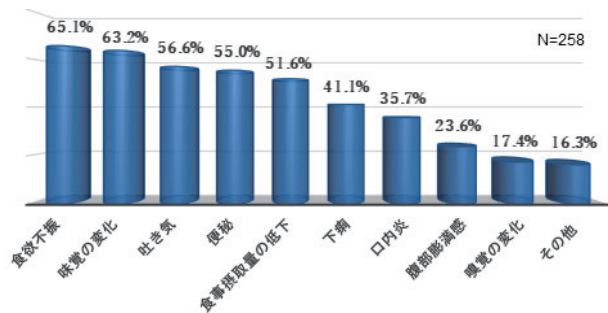
CNJサイト疾患啓発グッズにてメンズBC(男性乳がん)啓発グッズ¥1,000.-にて販売中!



メンズBCサイト
<https://mens-bc.amebaownd.com/>



(図1)【食事に関して、がん治療や副作用によりどのようなことで困りました(困っています)か】



がん治療時に体重を維持することは患者さんのQOLの向上および治療の継続につながります。しかし、多くの場合、抗がん剤の副作用や手術などの治療により食事が困難になってきます。

今回、ネスレ日本株式会社協力のもと「がん治療時の食事と栄養」についてのアンケートを実施し、406名の患者さんやご家族にご協力をいただきました。結果から、回答者の75%が「がんの治療や副作用で食事に関する悩み」を経験しており、様々な複数の要因により食事が困難な経験をしていることが分かりました(図1)。しかし、適切な栄養指導を受けた割合は25%にとどまり、栄養状態を管理していく上で、回答者の40%は悩みが

「がん治療時の食事と栄養」についてのアンケート調査を実施しました

Know (≠ NO) More Cancer プロジェクト ～古本が寄付になる!～



読み終わった本、不要になった本が寄付となる「チャリボン」で私達キャンサーネットジャパンの活動を応援してください!いただいた寄付金は、広く社会へ「がん」を理解してもらうためのツールの企画と実施のための活動に使わせていただきます。



<https://www.charibon.jp/partner/cancernet/>

あっても相談せずに過ごして、そのうち約10%は誰に相談していいか分からなかったと回答しました。更に相談した場合でも解決できたという回答は半数以下にとどまりました。今回見えてきた様々な課題が、がん患者さんへの支援の一助になるよう願うとともに、私たちの活動の参考にしていきたいと思えます。

担当/馬場



「がん治療時の食事と栄養」

<https://www.japancancerforum.jp/programs/2020/program3229>

Nutrition Drink

すっきりおいしく
脂肪ゼロ

カラダのもとになる
ホエイプロテイン
10g

カラダを
うごかすエネルギー
200kcal

シンプルな素材
クリアな透明感

キャップ付き
ワンステップバック
採用



栄養補給を、 もっと自然に。

さわやかな甘さとすっきりとした口当たりの「アイソカル® クリア」は思うように食事が進まないときの栄養補給をサポート。たんばく質やエネルギーを毎日の生活の中で手軽に摂取できます。



ネスレ日本株式会社
ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー
〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-20
<https://www.nestlehealthscience.jp/>
®登録商標



アイソカル® クリアについて
詳しくはこちら

AYA世代女子のがん治療と性

AYA 世代 (Adolescent and Young Adult、思春期・若年成人) の女子は、体の変化とともに、妊娠や出産なども経験する時期にもさしかかります。がんの診断を受けると、がんの治療のことで頭がいっぱいになりがちですが、特に AYA 世代の女子の場合は、がん治療とその後の生活を見据え、「セクシャルヘルス (性の健康)」にも気を配る必要があります。がん治療中の予期せぬ妊娠により、治療が中断されたり、精神的な負担が増えたりします。また AYA 世代女子は、治療による体の変化、妊よう性などに不安があっても、誰に相談してよいかわからず、気後れする 경우가ほとんどです。一方で、がん専門医や親の側も若い AYA 世代女子に対して、セクシャルヘルスに関する情報が必要であることを認識していない場合も多いでしょう。

イエール大学ニューヘイブズン病院でがん治療を受けた、15 歳から 25 歳の AYA 世代女子の医療記録を調査したところ、48.4% が治療期間中に低用量避妊薬 (ピル) を服用していたことから、性交渉を行っている若い AYA 世代女子も一定程度いると推測できます。ですが、同期間にセクシャ

ルヘルスのカウンセリングを受けた人の割合は、33.1% にとどまっていた。さらに 15 歳から 20 歳の患者は、セクシャルヘルスのカウンセリングを受けた可能性が低いことがわかりました。研究者はこうした若い患者にも、ピルやコンドームによる避妊を含めたカウンセリングが必要だと指摘しています。

一方、妊よう性について、AYA 世代がんサバイバーの知識を調べたワシントン大学シアトル小児病院の調査 (2015 年) では、18% の男子、そして 38% の女子が、精子や卵子の凍結保存という「妊よう性温存」について「知らなかった」ので、行わなかった」と回答しています。

避妊、妊よう性にとどまらず、性の自己認識、ボディ・イメージ、パートナーとの性交渉など、セクシャルヘルスに関する AYA 世代患者の悩みは幅広く、これまでのがん医療では対応が不十分だった感はいなめません。このためコネチカット小児医療センターでは、AYA 世代患者と効果的にセクシャルヘルス問題を話すためのがん専門医向け研修を開発しているそうです。

情報提供 / 海外がん医療情報リファレンス

理事就任のご挨拶

「小嶋がんのシリーズを『ニュース23』でもやってくれないか」今は亡き、筑紫哲也キャスターの一言で、シリーズ『がんと共に生きる』の取材が始まった。2005年のことだ。その第1弾は、かねてより親交のあった南雲吉則医師 (『キャンサーネットジャパン』創始者・元代表) と共に考える乳がん治療。南雲元代表は1990年代から、セカンドピニオンを推進し、乳房同時再建やデブサリなど時代を先取りする乳がん治療を実践。私も一人の乳がん患者を軸にドキュメンタリーを作成、放送した (2006年)。この年は『がん対策基本法』の成立の年でもあり、がん対策元年とも呼ばれた。このころから、故・山本孝史参議院議員 (参議院本会議にて自らの胸腺がんを告白。がん対策基本法の早期成立を訴えたことで有名) らと一緒にキャンサーネットジャパンに入り浸るようになったが、そこで岩瀬哲医師 (現代表) という「この世に一人とない知」を得ることになった。岩瀬代表とは、心の拠り所となる書物が同じであることがわかったその時から同志となり、今に至っている。

さて、自己紹介が遅れ「君は何者か」と訝しむ声も聞こえてきそう。私は、TBS報道局で医療担当の解説委員をしている。☆がん・難病☆感染症☆災害医療 (被ばく医療) の3つが専門で、2011年の東日本大震災では、フクイチ (福島第一原子力発電所) の事故担当として、発生から一年半福島と東京を往復してきた。猛威を振るう新型コロナウイルスでも、専門記者としてテレビ・ラジオで解説を続けている。がんでは、インフォームドコンセントやセカンドオピニオン、患者中心の医療、EBMなどの国民への啓発に力を入れてきた。1990年代には、米国の「集学医療」としてのチーム医療を、他メディアに先んじて国民に詳細に伝えてきた。精巣腫瘍を2回経験したがんサバイバーでもあり、2010年、日本初の精巣腫瘍患者会の発起人も務めた。

キャンサーネットジャパン理事
TBSテレビ報道局 解説委員

小嶋 修一





私だけの 治療法をください。

同じ病気だとしても、
私たち患者はそれぞれ別の人間です。
病気の性格も、
薬の効き方も、みんな違う。
治し方は、人の数だけ
あるべきじゃないですか。

一人ひとりの遺伝子に基づく
「個別化医療」に貢献しています。

創造で、想像を超える。



すべての革新は患者さんのために

中外製薬

Roche ロシュグループ